夢大きく　思いゆたかに　考えふかく

あかまつ

大仙市立太田南小学校
コラボ・スクール通信
第４０号
2014.12.3

コラボ・スクールは、「連携・協働」を進める学校を意味した、本校の造語です。

小・中のコラボ！　太田中入学ガイダンス

１１月２７日、３小学校の６年生（５９人）が太田中に集まり、「第１回太田中入学ガイダンス」を行いました。この日、６年生は朝から太田中に出向き、中学校の先生方から授業を受けたり、「被災地交流報告会」に参加したりと、１日かけて中学校の学習・生活体験を行いました。

午前中は、３校の６年生が２クラスに分かれ、理科・英語・美術の授業を中学校の先生から受けました。子どもたちは、最初は緊張した様子でしたが、真剣な表情で授業に臨んでいました。

午後は、被災地交流報告会が行われました。夏休み中に小・中生と保護者・地域の方々ら約１００人が参加して大槌町の仮設住宅訪問や「ふれあいコンサート」を行ったこと、３小学校で育てたお米が「まごころ米」として大槌中生に届けられたことなどが報告されました。

ちなみに、今年の報告会では小学生の発表もあり、３小学校の児童会代表の子どもたちが、３校合同修学旅行の際に仙台市若林区種次で行った花苗植栽の奉仕活動について発表しました。とても立派でした。

入学ガイダンスの取組を行ってから今年で３年目になりますが、入学ガイダンスは小・中連携の一番の取組として、今ではすっかり定着した感があります。私は、このような小・中連携の取組を繰り返し続けていくことによって、いわゆる「中１ギャップ」をなくしていきたいと考えています。

「学び直し」で 子どもたちに自信！

本校では、１１月を「フォローアップ強化月間」として、授業で分からなかった内容やつまづいた問題を、重点的に「学び直し」ながら学力定着の底上げを図るとともに、学習意欲も向上させる画期的な取組を行っています。

１１月に入ると本校では、６時間目を「フォローアップタイム」として、校長・教頭はじめ手の空いている下学年の先生方も分かれて４～６年のクラスに入り、つまずいた部分を中心に個別に指導しています。先生方は、一人一人のつまずきに応じたプリントを用意し、それぞれのペースで解かせたり、分からないところをアドバイスしたりします。

一般に、高校生や大学生の数学のつまずきは、多くの場合小学校時代の「わり算」や「分数」から始まることが指摘されています。本校が、フォローアップタイムを特設して学び直しに取り組む理由には、大きく二つあります。一つは、「かけ算九九が分からないまま、絶対に中学に進学させてはならない！」「小学校で習うべき内容は、小学校にいるうちにしっかり身に付けさせる！」との強い使命感があるからです。

もう一つは、実はこれが最大の理由ですが、解けない問題を「分からない」といってあきらめ気味だった子どもたちに、「やればできる」の気持ちをもたせたいからです。

本日、４～６年生の子どもたちは、恒例の県学習状況調査を行いましたが、多くの子どもたちは、フォローアップ月間の努力・がんばりによって、解けそうもなかった問題を解くことができるようになり、手応えを感じている様子でした。

私は、このような「学び直し」の取組を続けながら、子どもたちに「やればできる」の自信を付けさせたいと思っています。

教頭先生と「学び直し」を行う５年生